

- 12.あなたがたの財産や子女を増やし、またあなたがたのために、様々な園や（水の流れる）河川を蝕けられる。
- 13.あなたがたはどうしたのか。アッラーの御親切、我慢強さに対して、望・を持たないとは。
- 14.かれは本当に順序よく段階をおってあなたがたを創られた。
- 15.あなたがたは、アッラーが7天を如何に一層また一層と、創られたかを考えて・なかったのか。
- 16.また月をその中の明りとされ、太陽を（燃える）灯明となされたかを。
- 17.アッラーはあなたがたを土から育てられ、
- 18.それから、あなたがたは大地に帰され、また起き上らせられる。
- 19.またアッラーはあなたがたのために、大地を延べ広げられ、
- 20.そこであなたがたは、広い大道を往来するであろう。』といて聞かせました。」
- 21.ヌーフは（更に）言った。「主よ、かれらはわたしに従いません。自分の財産と子女とで、破滅を助長する者にだけ従います。
- 22.そして重大な策謀を企・ます。
- 23.かれらは言います。『あなたがたの神々を捨てるな。ウッドもスフーフも、またヤグースもヤウークもナスルも、捨ててはならない。』
- 24.かれらは既に多くの者を迷わせました。（主よ）迷いを放任されても、不義を行う者を多くしないで下さい。」
- 25.かれらは様々な罪のために溺れさせられ、更に火獄に送られ、アッラーの外には、どんな援助者も得られなかった。
- 26.ヌーフは（祈って）言った。「主よ、不信心な居住者を誰一人として地上に残さないで下さい。
- 27.もしあなたがかれらを残されれば、かれらは必ずあなたに仕える者を迷わせ、また罪を犯す不信心な者の外、生まないでしょう。
- 28.主よ、わたしとわたしの両親を御赦し下さい。また信者としてわたしの家に入る者、また（凡ての）信仰する男と信仰する女たちを御赦し下さい。そして不義を行う者たちには、滅亡の外には（何も）加えないで下さい。」

## SURA 72.アル・ジン（幽精）章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.言え、「わたしにこう啓示された。一団のジンが（クルアーンを）聞いて言った。『わたしたちは、本当に驚くべき読誦を聞いた。
- 2.正しい道への導きである。だからわたしたちは信仰し、主に何ものをも配さない。
- 3.尊厳にしていと高き主の御威光よ、かれは妻を娶らず、子も持たれない。
- 4.わたしたちの中の愚かな者が、アッラーに対し途方もない嘘を話していた。
- 5.しかしわたしたちは、人間もジンも、アッラーに就いて嘘を言うべきではないと考えていた。
- 6.本当に或る種の人間は、ジンの或る者に祢護を求める。しかしそれは、かれらの愚劣を助長した。
- 7.かれらもあなたがたが考えたように、アッラーは、何者も甦らされないだろうと考えていた。
- 8.わたしたちは、天（の秘密）に触れようとしたが、これは強い護衛の燃え輝く星（流星）で一杯であることが分った。
- 9.わたしたちは（盗・）聞くためにそこに坐っていた。だが聞き耳を立てる者には、警戒している燃え輝く星（流星）が待ち構えている。
- 10.わたしたちは、主が地上の者に対して悪を望まれているのか、または、かれらを正しい道に、導くことを望まれているのか知らなかった。
- 11.わたしたちの中には、正しい者もいるが、そうではない者もいて、様々な道に従っている。
- 12.だがわたしたちは、地上においてアッラーを出し抜くことは出来ないし、また逃避して、かれを失敗させることも出来ないと思っている。
- 13.わたしたちは導きを聴いて、直ぐそれを信仰した。そして主を信じる者には、恐れもなく、損うこともなく、また不正にあうこともない。
- 14.わたしたちの中には、（アッラーに）服従、帰依する者もあり、また正道から逸れる者もいる。服従、帰依した者は正しい道に志向を定める。
- 15.だが正道から逸れる者は火獄の薪となろう。』と。」
- 16.もしかれらが（正しい）道を守るならば、われは必ず豊かな雨（凡ての恩恵）をかれらに恵む。
- 17.われはそれによってかれらを試・よう。だが主を念うことから逸れる者は、厳しい懲罰に追いたてられることになる。
- 18.本当にマスジドは（凡て）アッラーの有である。それでアッラーと同位に配して他の者に祈ってはならない。
- 19.アッラーのしもべ（ムハンマド）が、かれに祈るために立った時、かれら（マッカの多神教徒）はどっと押し寄せんばかりに、かれを取り巻いた。

- 20.言ってやるがいい。「わたしは、一途にわが主に祈り、何もかれと同位に配さない。」
- 21.言ってやるがいい。「わたしには、あなたがたを害したり、益したりする力はないのである。」
- 22.言ってやるがいい。「誰もアッラーからわたしを守り切ることは出来ないし、またかれの外に、避難所を見い出すことも出来ない。
- 23.(わたしは) 只アッラーからの御告げを、 宣べ伝えるに過ぎない。それでアッラーとその使徒に従わない者、かれらには地獄の火があり、永遠にその中に住むであろう。」
- 24.かれらは、約束されたことを見る時になって、助力において誰が最も頼りにならないか、数においても誰が最も頼りにならないかを知るであろう。
- 25.言ってやるがいい。「わたしは、あなたがたに約束されたことが近付いているのか、それともアッラーがもう少し期間を蝕けられたのかを知らない。
- 26.かれ(だけ) が幽玄界を知っておられ、その秘密を誰にも漏されはしない。
- 27.かれの御気に召した使徒以外には。それで、かれは、前からも後ろからも護衛して、(使徒を) 赴かせられた。
- 28.それはかれらが、果して主の御告げを伝えたかどうかをかれが知られるためであり、またかれらの持つものを取り囲んで、凡てをそれぞれ計算に数え上げられるためである。

## SURA 73.衣を纏う者章 [アル・ムッザンミル]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.衣を頭から纏う者(ムハンマド)よ、
- 2.夜間に(礼拝に)立て、少時を除いて。
- 3.夜間の半分、またそれよりも少し縮めて(礼拝に立て)、
- 4.あるいは、それよりも少し多く礼拝に(立て)、そしてゆっくりと慎重な調子で、クルアーンを読め。
- 5.やがてわれは、荘重な御言葉(クルアーン)をあなたに下すであろう。
- 6.本当に夜間(礼拝)に起きることは、最も力強い歩・であり、御言葉を一層明確にする。
- 7.本当にあなたは、昼間は要務で長く追われる。
- 8.それであなたの主の御名を唱念し、精魂を傾けてかれに仕えなさい。
- 9.東と西の主であられ、かれの外に神はないのである。それでかれを、御槌すべき方として仰ぎなさい。
- 10.かれらの言うことを耐え忍び、かれらを離れよ、立派に身をかわせ。